

長浜市森林ディレクション審議会（平成30年度第2回）議事録

【出席者】委員8名（敬称略）

会長 滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科教授：高田 豊文
副会長 鳥居木材株式会社：鳥居 憲治
滋賀県猟友会長浜支部支部長：内海 来
林友会、自然再生士：吉井 悟
山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会：橋本 勘
滋賀県生物環境アドバイザー：村上 宣雄
公募市民：東 逸平
湖北森林整備事務所：福田 公二
市（事務局）4名
森林整備課：永井課長、横田課長代理、辻副参事、寺村主査
欠席 滋賀北部森林組合：膽吹 憲男
市民公募：吉川 誠

【開催日等】平成30年8月8日（水）午前9時30分～

場所：長浜市役所3-Bコミュニティールーム

【議事項目】

- （1）評価提案シートのまとめについて
- （2）今後のスケジュールについて
- （3）その他 資料2、参考資料について事務局説明。

【議事録】

1. 開会 課長あいさつ。
2. 議事

（1）評価提案シートのまとめについて

（事務局）

- ・資料1の説明の前に、前回各事業の達成率評価を★の数で評価を実施しました、進捗状況等から★評価について増減等の意見があればお願いします。

基本施策（1）森林の大切さの啓発と魅力の発信

（議長）※議長は本審議会会長（以下同じ）

- ・フォレスター事業の部分と、情報発信について何かご意見等ありましたらお願いします。

（委員）

- ・ドイツのフォレスターを招へいして、何が参考となって、何が長浜市として生かせるかまとめるとよいただ来てもらっただけに終わる。計画をただけに終わらないようにしなければならない。前回にも得るものはあったはずだと思うが。

（事務局）

- ・今回は、余呉町坂口、谷口町の谷口杉の2カ所で現地指導を実施してもらった。ドイツのフォレスター

は、森林の権限が強く、伐採などフォレスター主導のもと密な計画を学んでいく必要があると思われる。
しかしながら、ドイツのように大型機械などで森林事業を実施していくのは難しいのかと思っている。

(委員)

- ・長野県など国内でやっている事例の方がわかりやすいのでは。事前に国内で実践しているところに来ていただいて、森林組合で実践して発表するなどした方がよいと思う。

(議長)

- ・ドイツフォレスターの効果を明確にすることと、効果があがっている他の国内の事例を参考にする必要があるとの意見

(委員)

- ・他にもフォレスターを招集しているところはあるのか。

(委員)

- ・県内では、他にない。
- ・視察を委員会でもした方がよいのでは

(議長)

- ・広報については、委員の皆様も広報不足との認識を持っておられるようで、委員会の意見としましては、広報が不足として委員会意見とします。
- ・森づくりふれあいフェスタについて、今年は県と一緒に開催するのか。また、今後は単独で実施するのか、それとも他のイベントとの抱き合わせで行うのか。

(事務局)

今年は県のイベントに併せて行いたい。また今後も引き続きこうしたことを行っていきたいと考えており、より多くの人に来てもらうことを考えると抱き合わせでの開催も検討したい。

(委員)

- ・健康推進課の委員にもなっており、バイオ大学でのイベントに多くの人に参加されていた。広い目で見ると人も生物であるため、そういった点から木材とつなげていくこともできるのでないか。

(議長)

(1) 森林の大切さの啓発と魅力の発信の意見のまとめ

- ・森林の大切さの啓発と魅力の発信については、全体的に広報不足である。

基本施策(2) 市民が参画する森林づくり

(事務局)

- ・資料①について説明

(委員)

- ・市民の森林での活動を進めていく上で専門性が必要であり、さらに活動を中心的に進めるリーダーとなる人物が必要である。リーダーとなる人を中心に取組みを進めていき、その活動を見本に広めていくことが必要でないか。

(議長)

- ・そうした事例を積み上げていくことが必要と思われる。
- ・また森林づくりに熱心に取り組んでいる人を広く知ってもらうこともいるのでないか。

(委員)

- ・行政では、里山づくりに携わる方や団体をまとめたリストのようなものはあるのか。

(事務局)

- ・全ての団体をまとめたようなものはない。
- ・ただ、森林多面的機能推進事業の活用を書面で通知している。

(委員)

- ・そういった団体の情報をリストにしてまとめ、周知していく方がよいのでないか。

(委員)

- ・書面を送付するだけではなかなか結びつかないのではないか。

(事務局)

- ・この取り組みは里山を対象として、地域の方の活動を推進するものである。しかし、高齢化等により集落を維持することが厳しく、こうした活動をできない部分もある。そのため、活動の中心となるリーダーづくり、人づくりに重きを置いていきたい。

(議長)

- ・森林に触れる機会を増やしていくことが必要でないか。

(2) 市民が参画する森林づくりの意見のまとめ

- ・森林づくりのリーダーとなる人作りが必要。
- ・地域で活動されている団体のリスト化とネットワーク作りが必要。

基本施策（3）時代の森林を支える人づくり

(事務局)

- ・資料①について説明

(委員)

- ・自伐型林業について、1人で山に入って活動することになるのなら、事故等が起こったときにはどうするのか。またその辺の危険の認識はされているのか。さらに自伐型林業を行う上での機材はそろえられるのか。その辺のフォローはどうなっているのか。

(委員)

- ・市の方で自伐型林業に関する講習をされており、そこで技術を身に付けている。
- ・1人で活動を行うことはなく、基本的に3-5人のチームで行うことになる。
- ・素材生産については、林業を始めてからまだ3年であり、今後、徐々に人を増やしつつ、生産量も増やしていきたい。

(議長)

- ・意見でも記載したが、素材生産量の設定は妥当なのか。この数値自体の見直しが必要でないのか。

(事務局)

- ・目標値として高い部分がある。当初は高知の土佐の森救援隊を参考に設定したが、森林の状況が異なるため、同様に考えることは適さず、その辺を踏まえた数値になっていない。

(議長)

- ・現在、自伐型林業をされている方はどれくらいいるのか。

(事務局)

- ・これまで研修を行っており、50人は受講されたが、実際に活動されている方がどれくらいいるのか把握できていない。

(委員)

- ・伐った木材を持っていく所はあるのか。採算的にはどうなのか。

(委員)

- ・薪の販売やバーデ浅井の薪ボイラーの所で引き取ってもらっている。

(委員)

- ・山に入った際に会うのは、森林組合の方がほとんどで、後は定年後に自分の山の手入れに来られる方にたまに会うくらいである。若い人は全然入られていない。

(委員)

- ・バーデ浅井の方に出している人は誰がいるのか。

(事務局)

- ・市の方では把握していない。

(委員)

- ・自伐型林業の定義は何なのか。他の地域でされている木の駅のようなものを指すことになるのか。

(事務局)

- ・木の駅を行えるのは林業県のようなところになる。その辺りは長浜市の状況と異なる。

(委員)

- ・地域おこし協力隊という制度を活用して今、自伐型林業に取り組んでおられるが、普通の方が仕事を辞めて自伐型林業をしようとするのは難しいのではないかと。京都府綾部市の方では半農半Xとして取り組まれていると聞いており、ここだと長浜市とも状況は大きく変わらないと思う。長浜市で行う自伐型林業のモデルのようなものが必要でないか。

(事務局)

- ・半農半Xのように副業型で取り組む形もあり、長浜でできるスタイルを検討している。

(委員)

- ・自伐型林業をやりたい方がいるため、その方がしっかりと自立できるよう行政としても支援が必要なのではないか。
- ・林業単独では難しい部分があるため、観光と林業を組み合わせるなどして人を呼び込んで収入を得ていくことも必要でないか。

(委員)

- ・現在、森林が一定育ってきているため、間伐、枝打ち、自伐を複合的にしていくことが大事では。

(委員)

- ・現在、庭師の人が足りず、シルバー人材センターの方がやられていることがあるが、庭木のことをわかった上で刈られている。そうした技術を得て収入を得るなど、活動の幅を広げていくことが必要では。
- ・長浜市内での木材の使用量を増やすために、薪ストーブの普及に向けた取組みを市がもっと行っていくことが必要でないか。

(委員)

- ・薪ストーブは住宅が隣接した場所では、煙が問題となる、使うに使える点もあると思われる。

(事務局)

- ・市で補助している薪ストーブは二次燃焼機能があるため、煙対策をしている。

(委員)

- ・地域おこし協力隊の方が3年後にしっかりと自立できるようなプログラムを考えることが必要では。

(議長)

(3) の意見のまとめ

- ・自伐型林業の推進に向けた人づくりや長浜での自伐のスタイルの確立が必要である。
- ・林業だけでなく、観光などを含めた取組みも必要なのでは。

基本施策（４）森林資源の利用拡大

(議長)

- ・A材、B材、C材とあるが、林業をしている方としては、どの材として出したいのか。

(事務局)

- ・価格としてはA材が高いため、A材として出したいと思われる。また山主としても手塩にかけた森林の場合、A材として扱って欲しいと思われる。

(委員)

- ・岐阜県恵那市では、薪ストーブを温泉の熱源にしており、温泉で余ったものを一般の薪ストーブ向けに販売されている。余すことなく販売する取組みとして良い。

(議長)

- ・住宅を建てる際に市産材を使うと補助があるが、それは長浜市内の業者が市外に建てる場合も対象になるのか。

(事務局)

- ・その場合は対象にならない。この補助金については、前回の審議会でも議論になっていたが、交付対象を含めて考えていく必要がある。

(委員)

- ・新築よりリフォームされる方が多いのでないか。その際に補助金の対象となる方がよいのでないか。

(委員)

- ・この補助金は、工務店にメリットが一切ない。また、材木屋なら材の提供から建築まで一括でする場合は補助金を活用することもできるが、工務店の場合、メリットがなく利用しようとはならない。
- ・リフォームについては、内容の把握が難しいため行政も対象にしていないのでないか。
- ・木の流れを考える上で、いくら素材を生産してもはけ口がないと回っていかない。そして儲かる必要がある。はけ口があり、お金になるような状況を作ることができれば自然と山に人が入ることになるのではないか。
- ・このことを考える上で市として森林をどのように回していくかを、ガイドラインなどで示す必要がある。
- ・議論する上で柱となる、ガイドラインのようなものがあるのではないか。

(委員)

- ・補助金の対象を工務店にすべきということか。

(委員)

- ・施主を対象にしてもよいが、その場合は施主が使いたいと思えるようなものにする必要がある。また工務店としてもメリットがあるようにする必要がある。

(委員)

- ・ペレットストーブについて、今はコンピューター管理により大分楽になってきている。しかし、その辺の認識がないため、そういった周知も必要では。

(議長)

(4) 森林資源の利用拡大の意見のまとめ

- ・個人が市産材を使いたいと思えるような施策の検討。
- ・薪ストーブなどによる薪（チップ）の利用の推進。

基本施策（5）効率的な木材生産

(委員)

- ・林道が 200km あるが、それを市で管理するのは無理である。森林組合にしてもらうのが現実的であり、そのためには一定のお金が必要となる。

(事務局)

- ・現在、森林組合に維持管理を委託している。林道は山の施業が主であるため、そうした視点でも森林組合にしてもらう方がよい。

(委員)

- ・地元にも生産森林組合があるが、活動されていない。他の地域も同様と思われる。

(5) の意見のまとめ

- ・集約化について行政と自治会が連携して進めていく。

(6) 多様な森づくり

(委員)

- ・意見として山で作業される際に鳥獣害で鉄砲を撃つと怖いとあった。山で作業される際は、軽トラ等に作業している旨掲示してもらえると、対応ができる。
- ・ちなみに長浜市では鳥獣害の鉄砲に関わる事故はないが、県内では米原などで事故が起きている。

(委員)

- ・巨樹・巨木の森整備事業とはどういうものか。

(事務局)

- ・市が直接事業するわけではなく、保全団体に対して補助を出している。

(委員)

- ・タブノキについて現在、クラウドファンディングされているが、どれくらい集まっているのか。集まらなかった場合はどうするのか。

(事務局)

- ・国からの補助がなくなり、資金調達の一つとして行っている。クラウドファンディングで集まらなくても引き続きしていく必要があるため、保全活動を行っていく。

(委員)

- ・タブノキが密植されていると思われ、この状態だと大きく育たないため、植える幅を空ける必要があるのではないか。

(6) の意見のまとめ

- ・天然林の保全や有効活用に課題がある。

(議長)

- ・今年度から反映できるものは今年度、できないものは次年度以降に対応していただきたい。

(2) 今後のスケジュールについて

(事務局)

- ・視察に行ければと考えている。

(3) その他

(委員)

- ・委員の中で意見のあった、長浜市の中で木材を回すサイクルがわかるようなものを作っていないといけないのではないか。

(事務局)

- ・こちらについても一度事務局で検討し、必要に応じて審議会に諮りたい。考える上で委員の皆様にご意見をお聞きすることがあるかもしれないため、協力をお願いします。

3. 閉会